

第7回富士山支部勉強会～多職種連携による地域活性～

今回のテーマは“多職種連携”、“地域活性”です。日頃、実践されている奥熱海クリニックの佐久間院長と北山農園の平垣紀子様にご講義頂きました。佐久間先生はクリニックで精神科診療や健康法をされておりますが、施設の外に出ても不登校児、ニート、自殺予防、認知症の方やその支援者に対し講義などを行っております。医師会や行政など地域のニーズに積極的に応え、住民の“何をどうしたらいいかわからない”に介入していくことで、健康で永続可能な社会（ソハス）に繋がるよう活動されております。

平垣様は、発達障害を抱える症例の就労先として、北山農場へ受け入れをされたお話をされました。当初は意思疎通困難な症例でしたが、ハプニング的なものはあっても安心できる環境のなかで次第に表出できるようになりました。百姓とは百の仕事があるようで、障害を抱えながらも連携できる作業も多く、農家にとっても人手不足の解消にも繋がる可能性があるようです。病院に行けば病人として扱われますが、地域にいれば個性になることもあります。平垣様も障害に対する知識がなく手探りのようでしたが、そんなとき専門職と一緒に作業しながら相談に乗れるかたちがあれば、さらに安心感があつたかもしれません。現在、就労先として企業以外の受け入れ先はまだまだ少ないようですが、こうした社会的処方箋がますます重要になりそうです。キューバのプレソノ博士によると“生物学は人の健康の8%としか決定していない。残りを決めるのは、家族、コミュニティ、環境といったそれ以外の要素である。”という言葉があります。医療者は“医”の中の蛙にならないように、地域に出ることが求められてきているのではないのでしょうか。

現代は、分断され孤立化しやすい時代と言われております。他者とつながっていくことの大切さ。時にぶつかることもあり、大変だけど楽しんでいける力を。そして支援者が嫌にならないように癒していくことも大事なことです。そんな刺激をうける機会を支部では提供していきたいと思えます。

次回勉強会は、11月18日に“ふじの国薬膳”とのコラボで行います。薬膳とは、自然と調和させて健康に導く食事です。食や健康増進に関心のある方はぜひご参加ください。(yakuzenfujinokuni@gmail.com)

